

兵庫縣羊齒おぼえ書(3)

稲田又男

△ 妙見山、氷の山

兵庫県生物学会、植物分類地理学会共催で昭和27年8月9日より11日まで、但馬妙見山、氷の山で採集会が開催された。筆者は昭和12年牧野博士指導の氷の山、鉢伏山採集会に参加以来実に15年振りに氷の山に採集の機会を得たわけである。

今回筆者の採集録に記録した羊齒の数は妙見山48種、氷の山38種であり、その内兵庫県として注意すべきものを採集録より抜書してみると次の通りである。

1. ミヤマベニシダ *Dryopteris monticola* C. Chr.
(妙見山)
2. シラネワラビ *Dryopteris austriaca* Woynar
(妙見、氷の山)
3. オオバシヨリマ *Thelypteris quelpaertensis*
Ching (氷の山)
4. ヤマドリゼンマイ *Osmunda cinnamomea* L.
(氷の山)
5. ヒメスギラン *Lycopodium chinense* Christ.
(氷の山)

以上の5種は共に寒地性のものであり、本県に於てはいずれも高山でないと期待出来ない。ミヤマベニシダは本県では宍粟郡奥谷村音水、赤西両国有林と妙見山、鉢伏山但馬等に産する。シラネワラビ、オオバシヨリマの両種は氷の山の峠附近より尾根づたいに山頂に向うチシマザサヤブナの下草として生育している。シラネワラビは妙見では峠の地蔵附近にわずかに貧弱なものがあった。本県では此の2箇所以外にはまだ産地の記録がない。オオバシヨリマは此の氷の山以外に氷上郡丹波に産すると細見末男氏が報じている(氷上郡植物誌)が筆者は産地を知らない。

ヤマドリゼンマイは寒地性であると共に湿地性のもので氷の山山頂の湿地帯にモウセンゴケ、アカモノ、マイヅルソウ、ツマトリソウなどに混つて群落をなしていた。

ヒメスギランは氷の山の頂上近くの岩蔭で採つた。本県の産地としては筆者はあまり詳しく知らないが、本県稀産の部類に入れるべきものではないかと思う。

6. ウスヒメワラビ *Acystopteris japonica* Nakai
7. ウラボシノコギリシダ *Athyrium Sheareri* Ching
8. トガリバメシダ *Athyrium multifidum* Rosenst.
form. *actissimum* Tagawa

以上の3種は8月10日福岡小学校から熊次村福定へ

向うコースで得たもので前記5種の寒地性羊齒に比しこれらはいずれも暖地性のものである。

ウラボシノコギリシダは兎塚村福岡の道路の田の土堤で得たもので、筆者は本県にも当然産すべきものとして注意していたものであり、今回の採集は筆者初めてであるが、よく注意すれば各地に出るものと思われる。氷上郡では荒木英一氏が吉見村岩戸寺山で得ている。ウスヒメワラビもウラボシノコギリシダと同じく本県での産出可能な羊齒として注目していたのであるが別宮(熊次村)の杜叢の中で得た。他に本県では本年5月18日氷上郡妙高山でも採り本年2度目の採集であつた。

トガリバメシダは兎塚村から熊次村へ越すワラビの草原とも云うべき山でサトメシダに混つて生えていた。本種はサトメシダの少し型の変つたもので重要なものではなく品種として取扱つている。本県としては未発表のものであるが氷上郡稲坂峠で足立嘉須市氏が採つている。

△ 笠形山

9. ハコネシケチシダ *Cornopteris hakonensis*

Nakai

10. ミヤマクマワラビ *Dryopteris polepis* C. Chr'

昭和27年8月12日京大田川先生のお供をして神崎郡粟賀村根字野北の斜面より木馬道の尽きるところまで登つた。木馬道の終る少し手前から終るあたりまでの各所にミヤマクマワラビの生育が見られた。本種については前号おぼえ書(2)の19にて書いた通り笠形山で多数発見出来た事は嬉しかつた。ハコネシケチシダはシケチシダの羽片が更に羽状に深裂したもので、箱根山産のものについて命名されたので此の和名が附けられた。本県では氷上郡竹田村(京大標本室)と笠形山でこれが二度目の産地である。

△ 妙高山(氷上郡)

11. コモチシダ *Woodwardia orientalis* Sw.
12. オニヤブソテツ *Cyrtomium falcatum* Pr.
13. ヤノネシダ *Microsorium subhastatum* Ching
14. ミヤマノコギリシダ *Diplazium Mettenianum*
C. Chr.
15. カミガモシダ *Asplenium oligophlebium* Bak.

コモチシダとオニヤブソテツは共に妙高山麓の田の土堤で採集したもので両種は海岸性の羊齒で氷上郡にまで分布していることは注目すべき事であると思う。

なおオニヤブソテツは氷上郡柏原町にも産する。(岩槻邦男氏採)

ヤノネシダ、ミヤマノコギリシダは共に本県では稀産の部類に入るべきもので特にミヤマノコギリシダは宍粟郡船越山と妙高山以外に筆者は産地を知らない。カミガモシダは筆者前号おぼえ書(2)で丹波に産地が期待されると書いた通り丹波、特に氷上郡では各地に産する事が判明した。

以上の他に妙見、氷の山の項にて書いたウスヒメワラビ等本年は氷上郡の一端を一寸覗いただけであるが県下の羊歯調査に当つては見逃すことの出来ない郡であると思われる。

△ マツバランの産地について

本県に於けるマツバランの産地については、淡路の三熊山が有名であつたが、三熊山は金網を張つて保護をしていたそうであるが現在既に昔語りとなつている。淡路では他にまだ産地のあることを灘高校川崎先生から聞いていたが、それを先年福良町に産する事を確認した。本州では、揖保郡東鶯崎と赤穂郡上郡町落岩に産するが、前者は現在も生育するかは判明しないが、絶壁であるためおそらく生育しているのではないかと建部恵潤氏は語つている。(標本建部氏所蔵)後者は壺井緯氏が採集しておられる。

正宗敬敏氏は本種が本県に3カ所産する事を地図によつて示しておられるが、(植研 Vol.27 No.3 p.78)内1カ所は淡路の洲本三熊山を示し、残りの2カ所は本州で前記の揖保郡東鶯崎と赤穂郡上郡町落岩であることが想像される。なお、ちなみに正宗氏は本種の北限を能登半島の曾曾木であると述べられている。

△ 米沢新治氏の標本中より

昭和27年12月14日大阪学芸大学平野分校で日本シダの会関西談話会の例会の後で、田川先生、建部恵潤氏と現在平野(大阪)に住んでおられる米沢新治先生宅を訪問し、多年に亘つて採集された標本を見せていただいた。先生は採集地や採集年月日を1つ1つ記録されているので後日の参考資料として、まことに貴重なものであると感心すると共に、筆者等の整理の悪い事が反省された。

以下先生の標本中より県下産の内注目すべきものを書いてみると

16. ミヤマシシガシラ *Struthiopteris castanea*
Nakai 但馬駒ノ山 昭和13年8月21日採
17. ヨコグラヒメワラビ *Thelypteris Hattorii*
Tagawa 雪彦山 昭和3年8月12日採
18. カミガモシダ *Asplenium oligophlebium* Bak.
多紀郡村雲村 昭和3年7月1日採
19. ヒメサツラン *Loxogramme grammitoides*

C. Chr. 奥谷村音水国有林 昭和6年8月19日採

20. ヌカボシクリハラシ *Microsorium Buergerianum* Ching 淡路洲本附近 若林兵治氏採

以上の様なものであるが、ミヤマシシガシラは駒ノ山に産することは文献によつて知つていたが、実物に接した事がないので疑問の羊歯として探し求めていたのが先生の標本中に見出した事は大へん嬉しかつた。又ヌカボシクリハラシは先生の採集でないので採集年月日が不明のため残念なことであるが、本種は県下未記録のものであり現在でも得られるかどうか疑問であると思う。

なお先生は現在も御健在で採集会にも出席せられ健脚ぶりを発揮しておられる。先生の御多幸をお祈りしてやまない。

△ 県下羊歯新産地一東

21. オニヒカゲワラビ *Diplazium nipponicum*
Tagawa 氷上郡国領村(井上三義氏)
22. カラクサシダ *Pleurosoriopsis Makinoi* Formin
宍粟郡千種村(建部恵潤氏) 船越山(建部氏)
23. ギフベニシダ *Dryopteris Championii* Ching
var. *tenuifrons* H. Ito
加西郡下里村、加東郡小野町
24. トガリバイヌワラビ *Athyrium iseanum*
Rosenst. var. *angustrisectum* Tagawa
宍粟郡神戸村 黒尾山
25. ミヤコイヌワラビ *Athyrium flagulum* Tagawa
宍粟郡神戸村 黒尾山
26. オオバノアマクサシダ *Pteris inaequalis* Bak.
var. *simplicior* Tagawa 淡路猪鼻谷
27. ホテイシダ *Lepisorus annuifrons* Ching
奥谷村音水国有林(建部恵潤氏)但馬妙見山
28. マンネンズギ *Lycopodium obscurum* L.
但馬氷ノ山、六甲山(京大標本室)
29. シロヤマシダ *Diplazium hachijoense* Nakai
宍粟郡船越山(田川、建部両氏) 玄武洞附近(堀勝氏)
30. イワイタチシダ *Dryopteris saxiflaga* H. Ito
宍粟郡船越山(内海功一氏)
31. ヒメハイホラゴケ *Vandenboshia vadicans*
Copel. var. *nipponica* H. Ito
宍粟郡船越山(内海功一氏)

以上で昭和27年1カ年間に於ける本県羊歯植物についての目ぼしいものは筆者の採集したもの又は確認したものを問わずすべて集録したつもりである。此の外にまだ書くべき数種もあるが更によく調査の要があるので次回に書くことにする。貴重な標本を御恵与下さつた建部恵潤、内海功一の両氏に深く感謝の意を表します。

訂正 前回の羊歯おぼえ書(2)の内△奥谷村赤西国有林の項は奥谷村音水国有林の誤りで、従つて文中の赤西国有林と書いたものは全部音水国有林と訂正する。(1953, 1, 23)